

# 2023年度 全塾協議会 監査報告

全塾協議会 中央機関監査部  
(2025年1月25日更新)



慶應義塾大学  
全塾協議会  
All Keio Student Council

# 文化団体連盟本部

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用は適切になされているが、報告書の記載が誤っていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息である。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点は見られないが、不備が見られる決算書類であった。領収書がない出金伝票が複数みられた。おそらく紛失ではなく添付忘れだと思われる。

また、傘下団体に関する書類について2022年度決算報告書と2022年度傘下団体交付金一覧の提出があったが、2022年度会計中に交付される交付金年度は2021年度であるため、本来ならば2021年度傘下団体交付金一覧であるべきであろう。コロナ禍を経て、提出書類の認識が誤っていると考えられる。加えて、傘下団体の決算書類については、表紙に押印のないものが多く見られたことで減点数が増加している。

新型コロナウイルスの影響を受け現在も傘下団体交付金の交付年度に遅れが生じていること、今回の決算書類が期限を大幅に超えて提出されたことも踏まえ、自治団体として財務体制・監査体制の再構築をしていくことを強く求める。

# 体育会本部

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用が適切に記載されておらず、決算書類として不適切と認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息、徴収金で構成されている。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はないが、日頃の財務管理体制が杜撰であり極めて不健全であることが感じられる決算資料であった。昨年に引き続き、交付金会計と独自財源会計の口座が混同していたり、立替清算で重複して支払を行っているなど、財務体制の不健全さがうかがえる。

また、支出が事前に予測される飲食費や交通費等の特別支出承認申請が必要な項目が多く申請されておらず、特別支出対象品目に対する認識が団体内で十分共有されていないと考えられる。

個人の立替清算が多く、クレジットカードの明細が添付されていないことにより基礎減点がかさむ結果となった。自治団体として、「財務管理の手引き」を団体内で読み直す必要があると考える。

# 全国慶應学生会連盟

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。領収証紛失による減点が減点の多くを占めているため、日常の財務管理を徹底することが求められる。

# 四谷自治会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用は適切になされているが、報告書の記載が誤っていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息、傘下団体からの返還金である。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点は見られないが、申告されていない財務責任者の名前が記載されており、クレジットカードの利用明細を添付していない等、書類作成上の不備が見られた。また傘下団体の決算書類について、責任者の印鑑が押されていない団体が非常に多く見受けられる。傘下団体を持つ団体として、決算書類提出の大幅な遅延も含めた、基本的な財務体制の再構築と強化が求められると考える。

※2024年11月30日追記

銀行口座複写添付書について、提出書類の不備があったため、再提出を要したところ、額面が合致した。書類を作成する際にこのようなことがないように再度徹底していただきたい。

# 芝学友会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息、保護者補助金、企業協賛金、団体参加費である。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。減点は全て書類作成時の軽微なミスが中心となっている。会計統合等の事情があつたにもかかわらず、全体として丁寧に書類が作成されていた。

一方で、傘下団体の決算報告書については収支が一致しないにもかかわらず、監査報告書において減点がなされていないものが複数存在した。傘下団体を持つ団体として、団体内財務だけでなく、傘下団体を含めた財務の透明性や健全性を意識し、更なる財務体制の強化に努めていただきたい。

# 全塾ゼミナール委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年5月1日から2024年4月30日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

## 収入分析

収入は各ゼミナール委員会の拠出金と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。前年度と比較し、財務管理体制が健全になっていることが伺える。しかし、許可された特別支出額を超過した項目があった。引き続き、財務管理体制の強化に努める必要がある。

# オリエンテーション実行委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年5月1日から2024年4月30日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金(今年度なし)と利息のみである。

## 監査人意見

当年度に関しては支出はなかったため、書類作成上の減点のみとなっている。

# 塾生会館運営委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息、塾生会館の印刷室利用料金と銀行のキャッシュバックである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。前年度と比較し、財務管理体制が健全になっていることが伺える。しかし、出金伝票は領収書発行日を基準としていることから期間外支出があった。引き続き、財務管理体制の強化に努めていただきたい。

# 湘南学祭実行委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用が適切に記載されておらず、不正会計の疑いを含めさらなる調査が必要と認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と協賛金、七夕祭への参加費、義務保証金追徴、応援販売売上、七夕祭への出店料、花火募金、七夕祭当日の売上、利息で構成されている。

## 監査人意見

資金の運用に不審な点が見られる決算書類であった。クレジットカードの利用明細を貼付していない、特別支出として許可された金額を超過している等を原因とする減点が多く見られた。また銀行口座通帳複写添付書と決算報告書に記載された前年度繰越金・次年度繰越金の額が大きく異なっており、決算報告書のみ収支をすり合わせるように計算をしているように思われる。真相を確認する必要がある。

※2025年1月11日追記

銀行口座複写添付書について、提出書類の不備があったため、再提出を要したところ、額面が合致した。書類を作成する際にこのようなことがないように再度徹底していただきたい。

# 湘南自治会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。領収書の記載も丁寧であり、前年度と比較して財務管理体制が健全になっていることが伺える。引き続き、財務管理体制の維持に努めていただきたい。

# 卒業アルバム委員会

## 監査結論

決算書類未提出(2025/1/25時点)

## 収入分析

決算書類未提出(2025/1/25時点)

## 監査人意見

決算書類未提出(2025/1/25時点)

# 三田祭実行委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息、参加団体出店料、広告、パンフレット協賛、物販、寄付、罰金である。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。資料作成時のミスや、特別支出の申請期限超過が主な減点の理由である。釈明書を含めて適切に記載されており、昨年度の財務管理体制からの大きな改善が見られた。

カード明細の貼り忘れが散見されたが、デビットカードによる支払であるため問題ないと判断した。しかし、領収書上ではクレジットカードによる取引と記載されることがほとんどであるため、デビットカードによる取引であること、デビットカードの明細が確認できないと決済を明確にすることが難しくなる。また、カード明細はデビットカードでも発行可能である。

収入の「三田祭販売物」の売上金については、提出されていた書類上と実際の金額が一致しないため、真相を確認する必要がある。

※2024年11月30日追記

収入の「三田祭販売物」の売上金について書類の再提出があり、金額が一致した。少額ではあるものの、使途不明金が存在したため、次年度からこのようなことがないよう財務体制を引き続き強化していただきたい。

# 矢上祭実行委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用は適切になされているが、報告書の記載が誤っていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金、協賛金、寄付金、矢上祭参加団体関連費、ロボットコンテスト参加費、矢上祭売り上げ、三田祭売り上げ、委員からの集金、利息で構成されている。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなかったが、収入一覧の記載不備により、決算報告書における収入に不備があると考えられる。銀行口座通帳複写添付書の金額と次年度繰越金は一致したため、資金の運用に問題はないと判断する。また事後申請をした特別支出許可項目について、出金伝票に記載されていないと思われる項目が存在した。

大きな財源を有する団体として、決算作成時に財務整理をするのではなく、日頃より記載を重ねておくことによりミスは防げると考えられる。数年間で財務体制は健全になっているため、引き続き団体内で周知を徹底させることが求められる。

# 四谷祭実行委員会

## 監査結論

決算書類未提出(2024/11/23時点)

## 収入分析

決算書類未提出(2024/11/23時点)

## 監査人意見

決算書類未提出(2024/11/23時点)

# 慶早戦デジタル企画委員会(旧:K-Project)

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用が適切に記載されておらず、決算書類として不適切と認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はないが、日頃の財務管理体制が杜撰であることが感じられる決算資料であった。特別支出対象品目に当たるにもかかわらず承認申請がなされていない、クレジットカード明細が添付されていないなど、不適切な点が多く見られた。

資料作成や特別支出対象品目に対する団体内での認識が不十分であると言える。再度「財務管理の手引き」を読み、団体内での周知を徹底させることが必要である。

# 全塾ゼミナール委員会傘下 文学部社会学ゼミナール委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年5月1日から2024年4月30日)の決算書類を監査した結果、資金の運用は適切になされているが、報告書の記載が誤っていると認める。

## 収入分析

収入はゼミ費と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。減点はすべて書類作成の不備によるものである。減点数についても出金伝票が少ないため、割合計算により増加したものである。

全体的に昨年度に比べ財務体制に大幅な改善がみられた。引き続き「財務管理の手引き」を参照し、団体内の財務体制の強化と維持に努めていただきたい。

# 全塾ゼミナール委員会傘下 文学部人間科学ゼミナール委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年5月1日から2024年4月30日)の決算書類を監査した結果、資金の運用は適切になされているが、報告書の記載が誤っていると認める。

## 収入分析

収入はゼミ費と利息のみである。

## 監査人意見

減点は書類作成時のミスによるものである。「財務管理の手引き」を参照し、決算書類を作成する体制を構築することが求められる。

# 全塾ゼミナール委員会傘下 経済学部ゼミナール委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年5月1日から2024年4月30日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

## 収入分析

収入はゼミ費と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点は見られず、決算書類として大きな問題は見られなかった。減点は書類作成上の不備のみであった。引き継ぎが入念に行われており、健全な体制を築くことができている。引き続き、財務管理体制の維持に努めていただきたい。

# 全塾ゼミナール委員会傘下 法学部法律学科ゼミナール委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年5月1日から2024年4月30日)の決算書類を監査した結果、資金の運用が適切に記載されておらず、決算書類として不適切と認める。

## 収入分析

収入はゼミ費と利息である。

## 監査人意見

資金の運用が適切に記載されているとは言い難い決算書類であった。領収書がない出金伝票が散見されることから、団体の財務体制に疑問を呈さざるを得ない。今一度「財務管理の手引き」を参照し、日常の財務管理、決算書類の作成をすることが求められる。

# 全塾ゼミナール委員会傘下 法学部政治学科ゼミナール委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年5月1日から2024年4月30日)の決算書類を監査した結果、不正会計の疑いがあり、さらなる調査が必要と認める。

## 収入分析

収入はゼミ費と利息で構成されている。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点が見られる決算書類であった。ゼミ費の徴収については問題ないが、構成員による立替清算について、会計期末近くのタイミングで一年間の支出をまとめて返金を行っている。その際の返金額と提出されている出金伝票の合計額に差がみられる。結果として銀行口座通帳複写添付書と決算報告書は金額が合致するものの、支出一覧や出金伝票とは合致しない形となっている。このことから、意図せざる不正会計と判断した。

加えて、構成員への返金を振込で行っているため、返金額に対して振込手数料が余分にかかっていると考える。財務責任者による手渡しなど、他の方法を検討し、支出を抑える方法を模索していただきたい。全体として、財務体制の再構築は急務であると考えます。

# 全塾ゼミナール委員会傘下 商学部ゼミナール委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年5月1日から2024年4月30日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

## 収入分析

収入はゼミ費と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。減点はすべて書類作成のミスによるものである。昨年度に比べ財務体制に大幅な改善がみられた。引き続き「財務管理の手引き」を参照し、団体内の財務体制の強化と維持に努めていただきたい。

# 福利厚生機関本部傘下應援指導部 全塾会計

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用は適切になされているが、報告書の記載が誤っていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。出金伝票が作成されていない物が1枚確認されたが、その他は適切に処理されており、出金伝票の記載による不備、特別支出支出の事後申請による不備で減点がかさむ形となった。引継ぎの際には中央機関の発行する「財務管理の手引き」を再度確認していく必要がある。

# 福利厚生機関本部傘下 應援指導部 本部会計

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、やむを得ない事情がないにもかかわらず予算に準拠しない収支の執行を確認した。全塾協議会財務会計規則第18条(予算遵守)の違反を認める。

## 収入分析

収入は構成員のアルバイト収入、広告掲載費、OBからの寄付で構成されている。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はないが、日頃の財務管理体制が杜撰であることが感じられる決算資料であった。特に特別支出について、事後申請になっているものが多数散見された。また、領収書が貼付されていない出金伝票も多くあった。加えて、監査結論に記載する通り予算案と比較し支出超過が見られた。総じて、昨年度と比較し、財務体制が極めて不健全になっていることが伺える。書類上の体裁だけを整えるのではなく、実際に支出された内容を記載するという、福利厚生団体として塾生にきちんと説明責任を果たせる財務体制を構築していただきたい。

# 福利厚生機関本部傘下 應援指導部 チアリーディング部会計

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用が適切に記載されておらず、決算書類として不適切と認める。

## 収入分析

収入は構成員のアルバイト報酬、部費、三田会支援金、利息で構成されている。

## 監査人意見

資金の出入りについて、収入に関する領収書の控えの合計額が決算報告書の収入金額を超過しており、決算書類として不適切である。  
一方その他の減点に関しては、補足が不十分であったり、記載や訂正方法が誤っていたりといった書類作成上のミスが多かった。  
改めて「財務管理の手引き」を読み書類の作成方法を細部まで見直すとともに、収入の詳細を明らかにすることが必要である。

# 福利厚生機関本部傘下 應援指導部 吹奏楽団会計

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2024年1月10日)の決算書類を監査した結果、資金の運用は適切になされているが、報告書の記載が誤っていると認める。

## 収入分析

収入は構成員のアルバイト報酬、備品貸出代、三田会支援金、出演料で構成されている。

## 監査人意見

資金の運用に不審な点は見られなかったが、一部、金額の計算方法が不明瞭な点があった。減点についても書類作成時のミスがほとんどである。

改めて「財務管理の手引き」を参照した日常の財務管理、決算書類作成をすることが求められる。

# 福利厚生機関本部傘下 應援指導部 定期演奏会会計

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用が適切に記載されておらず、決算書類として不適切と認める。

## 収入分析

収入は部員からの徴収金、チケット収入、広告収入、OBからの寄付金で構成されている。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はないが、日頃の財務管理体制が杜撰であり極めて不健全であることが感じられる決算資料であった。

領収書が無い出金伝票が多いことに加えて、支出が事前に予測されるであろう飲食費や交通費、人件費等について、特別支出承認申請が必要な品目なのにも関わらず申請がなされていないものが多かった。特別支出や資料作成に関して団体内での周知が不十分であると言える。

改めて「財務管理の手引き」を団体内で読み、財務体制を見直す必要性がある。

# 福利厚生機関本部傘下 慶早戦支援委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用が適切に記載されておらず、決算書類として不適切と認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息、部費、応援席券売上金、大学からの支給金である。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はないが、これまでの財務管理体制が杜撰であったことが感じられる決算資料であった。

2023年度会計期間内において、本団体は全塾協議会に報告していない独自財源口座を持っていることが判明した。これまで口座の報告をしなかったこと、領収書を保管していないこと、特別支出承認申請が必要な項目が多く見られるにもかかわらず申請がなされていないことを本来の監査基準に基づき減点するならば、合計700点超の減点をする事となる。

しかし、2023年度のみ財務体制が問題ではなく、これまでの体制の積み重ねの結果であること、今回の報告にあたって、出金にかかる詳細な補足資料や釈明書が提出されていること、加えて全体として財務体制の健全化に向けて不断の努力がなされていると判断し、本口座については一括で150点の減点とした。それ以外の書類に関しては軽微なミスによる減点のみとなっている。2023年度財務責任者の不断の努力を無に帰すことが無いよう、団体内の財務体制を見直す契機とし、福利厚生団体として健全な財務体制を築いていただきたい。

# 福利厚生機関本部傘下 国際関係会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、やむを得ない事情がないにもかかわらず予算に準拠しない収支の執行を確認した。全塾協議会財務会計規則第18条(予算遵守)の違反を認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金、利息、構成員からの入会費、継続費、プログラム参加費で構成されている。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点が見られる決算書類であった。出金伝票については丁寧に作成されており、財務体制の健全化に向けて不断の努力がなされていることが感じられる。一方で、銀行口座通帳複写添付書においては支出がほとんどなされておらず、適切に管理されていないといえる。以前より中央機関から指摘をしている通りであるが、団体の財務担当者が支出数に対して不足しており、出金に対する返金対応が十分に追いついていないことが感じられる。そのため、財務体制を引き続き強化し、予実管理をこまめにしていくことを心掛けていただきたいと考える。

# 全塾協議会事務局

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。監査に携わる団体として財務管理上のいかなるミスも最小限に留められるべきである。

### 監査結論

2024年度の事業年度(2024年1月1日から2024年3月31日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

### 収入分析

収入は自治会費交付金と利息のみである。

### 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。監査に携わる団体として財務管理上のいかなるミスも最小限に留められるべきである。

# 選挙管理委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用は適切になされているが、報告書の記載が誤っていると認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点はないが、日頃の財務管理体制が杜撰であることが感じられる決算資料であった。カード明細の貼り忘れが散見されたが、デビットカードでも明細は発行可能であり、その点について一切の補足がないため、クレジットカードで支払ったと受け取られかねない。加えて、購入内容の補足がなされていないなど、不適切な点が多く見られた。

また、資料作成や特別支出対象品目に対する団体内での認識が不十分であると言える。既に当該団体は全塾協議会の特命担当委員会となっているが、財務体制については今回の結果を踏まえて細心の注意を払うことが必要である。

# 優勝準備委員会

## 監査結論

決算書類未提出(2024/11/23時点)

## 収入分析

決算書類未提出(2024/11/23時点)

## 監査人意見

決算書類未提出(2024/11/23時点)

# 新歓実行委員会

## 監査結論

2023年度の事業年度(2023年1月1日から2025年12月31日)の決算書類を監査した結果、資金の運用が適切に記載されておらず、決算書類として不適切と認める。

## 収入分析

収入は自治会費交付金と利息のみである。

## 監査人意見

資金の出入りに不審な点が散見される決算書類であった。立替清算が行われているものと推察するが、300万円を超えるものが見られた。団体の口座で直接振り込みできるものにも関わらず敢えて個人を介して清算する点において、財務体制の健全さに疑問を呈さざるを得ない。

また、資料作成や特別支出対象品目に対する団体内での認識が不十分である。既に当該団体は全塾協議会の常設委員会となっているが、財務体制については今回の結果を踏まえて細心の注意を払うことが必要である。

### 監査結論

2024年度の事業年度(2024年1月1日から2024年3月31日)の決算書類を監査した結果、適切に処理、記載されていると認める。

### 収入分析

収入は自治会費交付金と利息のみである。

### 監査人意見

資金の出入りに不審な点はなく、決算書類として大きな問題はなかった。2023年度の決算処理が不適切だったことを踏まえ、引き続き財務体制の強化に注力していただきたい。